

～ショパンと

珠玉の名曲たち～

最終回となる「シンフォニー・ブランチコンサート」には、

2014年度ハエン賞国際ピアノコンクール(スペイン)第1位をはじめとする栄冠に輝いた崎谷明弘を迎える。

彼のピアノの魅力は、全く無駄のない身体の使い方によって生み出される多彩な音色と、

それを駆使したドラマティックな表現力にある。

本日はそのピアノズムを堪能しつつ、月夜の情景を描いたソナタや小品、

オペラの名場面をピアノ一台で華麗に奏でる編曲作品など、フィナーレを飾るに相応しい充実した内容をお楽しみ頂きたい。

Program Note

ベートーヴェン: ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調 Op.27-2「月光」

Beethoven, Ludwig van : Sonate für Klavier Nr.14 "Sonata quasi una fantasia" (Mondscheinsonate) cis-moll Op.27-2

第1楽章	アダージョ・ソステヌート	1.Satz Adagio sostenuto
第2楽章	アレグレット・アンド・トリオ	2.Satz Allegretto and Trio
第3楽章	プレスト・アジタート	3.Satz Presto agitato

「月光」という通称は、ベートーヴェンと同時代の作曲家で、評論家でもあったレルシュタープがこの作品の第1楽章を聴いて述べたイメージに由来する。第1楽章は「可能な限り繊細に」と指示され、全編を通して分散和音で構成されている。第2楽章は軽やかなメヌエットであり、フランツ・リストはこの楽章について「2つの深淵の間の一輪の花」と述べた。第3楽章は、第1楽章と同じく分散和音に支配されたものだが、「急速に、興奮して」と指示され、奏者は休みなく鍵盤を駆け巡ることを要求されており、対照的な性格となっている。

ドビュッシー: 月の光

Debussy, Claude Achille : "Clair de lune"

ドビュッシーの初期作品であり、傑作の一つとされる「ベルガマスク組曲」の第3曲。「ベルガマスク」とは、ポール・ヴェルレーヌの詩集「艶なる宴」収録の詩「月の光」の一節「喜劇者たちとベルガモの踊り子たちは」に由来するとされている。フラット系の変ニ長調とシャープ系のホ長調を絶妙に行き来しながら、水面に浮かぶ月の柔らかな光のうつろいを巧みに描写している。

リスト: ラ・カンパネラ LW. A173-3

Liszt, Franz : La campanella LW. A173-3

リストは20歳の時に、当時超人的な名人芸で人気を博していたヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニの演奏に接し、大きな影響を受けて、ピアノの様々な技術を駆使した練習曲集「パガニーニの主題による大練習曲」を作曲した。「ラ・カンパネラ(鐘)」はその第3曲で、パガニーニのヴァイオリン協奏曲第2番の第3楽章「鐘のロンド」の編曲である。鐘の音を模倣した高音での幅広い跳躍が特徴となっている。

ショパン: ノクターン第1番、第2番、第3番 Op.9

Chopin, Frederic : 3 Nocturnes - Nr.1 b-moll, Nr.2 Es-dur, Nr.3 H-dur Op.9

「ノクターン」とは、色彩豊かな分散和音の伴奏にのせて、即興的な装飾が加えられたメロディを奏するジャンルを指す。第1番は広い音域をカバーする伴奏に乗せて、訴えかけるような旋律が歌われる。第2番は変奏曲のように主題が様々な装飾を加えられて変化していき、最後にはカデンツァのような急速な音型が置かれている。第3番は長調の語り掛けるような主部と、短調による急速で激しい中間部とのコントラストが特徴的である。

リスト: ドン=ジョヴァンニの回想 LW. A80

Liszt, Franz : Réminiscences de 'Don Juan's LW.A80

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトのオペラ「ドン・ジョヴァンニ」から、三つの場面(「騎士長のテーマ」、デュエット「お手をどうぞ」、騎士長のテーマの回想とドン・ジョヴァンニのアリア「シャンパンの歌」を組み合わせた部分)を、半音階の пассаージュを挟みながらリストが独自に再構成した作品。全編を通して超絶技巧が取り入れられているが、とりわけフィナーレの「シャンパンの歌」での急速な跳躍が圧倒的なクライマックスを形成する。

曲目解説: 長井進之介

